

事業所名

ビーフレンズ桂物集女校

支援プログラム（参考様式）

作成日

R7年

6月

1日

法人（事業所）理念	「視覚あそび」「体幹あそび」「自立れんしゅう」の三大療育を軸に掲げ、当所独自の療育を実践することで、日常生活の中で目に見える変化を児童本人にも保護者にも実感していただく。保護者と情報を共有し協力を得て行う「協育」を理念に、地域の方々や保護者と一緒に子どもの豊かな心を育てていくことを目指す。						
支援方針	視覚あそび(個別療育)…情報をしっかりと目でとらえるため、視覚トレーニングとして目の準備体操と紙面を使った様々な視覚あそびを、スタッフと1対1で行う。 体幹あそび(集団療育)…身体の軸をつくり呼吸を深くし脳を活性化するため、理論に基づいた多数のトレーニング方法をスタッフと一緒に遊びながら行う。 自立れんしゅう(集団療育)…社会での自立に向けて、身の回りのことが自分でできる、生きる力を育てることを目標に、個々の特性に応じた内容を繰り返し練習する。						
営業時間	9時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	栄養士が作り提供するおやつやクッキングを通し、季節感や日本の伝統を知ったり、様々な食材や調味料に触れられるようにしている。また、調理活動では、手順書（視覚的ツール）を確認し調理の工程を知り調理して味付けをしたりすることで達成感を味わい、社会への自立に向けた力を養う。その他、偏食が強い場合は食べられるものから少しずつ苦手なものも食べてみることを繰り返し、食べられるものを少しずつ増やしていきけるようにしていく。					
	運動・感覚	視覚あそびとして、対象を眼球運動で追いかけて見続ける「目の準備体操」と間違い探しや紙面にランダムに配置された数字を順番通りに正確に指を指していく「ナンバータッチ」を中心に、眼球運動の向上することで集中力や学習の力を養っていく。その上で、体幹あそびで足裏への刺激を取り入れつつダイナミックな動きや体の姿勢を保ち保持する運動を理論に基づいて提供し、体幹の筋力の他、平衡感覚も養っていく。また、工作も積極的に取り入れ、手指の巧緻性や感覚を養っている。					
	認知・行動	ルーチンやスケジュールを使用し、放課後デイサービスでの流れを確認し、自立的に行動できることを目指している。工作や調理など工程のある活動では、手順書（視覚的ツール）を使い『分かってできた！』を実感できるよう支援し、自己肯定感に繋げている。					
	言語 コミュニケーション	困った場面や分からない場面などで、大人がどのように言えば良いかを教えることで、『聞いたら簡単』や『聞けたからできた』と難しいことでも前向きに捉えられるようになり支援することで、自立的な援助要求ができるように促していく。発語が難しい児童には、様々な場面でPECSカードを使用し、コミュニケーション手段を提供することで、自発的なコミュニケーションの強化を目指す。					
	人間関係 社会性	集団活動を通して、その場にあった適切なルールや自分の役割を気づけるよう、声掛けや集団の内容やメンバーを配慮し支援していく。そして日々の療育のまとめとして、公園や様々な施設へのお出かけ活動を行い、順番を守る、交通ルールを守って道路を歩くなど、日常生活に必要なスキルを養い実践する場になっている。					
家族支援	アタッチメント（愛着）の安定 家族からの相談に対する適切な助言 研修やペアトレーニングなど障害の特性に配慮した家庭環境の整備	移行支援		放課後児童館などへの移行支援			
地域支援・地域連携	通所する子どもたちに関わる地域の関係者や関係機関と連携した支援		職員の質の向上		年間研修計画に基づいた研修 事例研修や療育会議など		
主な行事等	夏祭り、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティー、お餅つき、系列事業所同士での交流会						